



佐賀保育所



のびのびと遊べる子ども  
元気に活動できる子ども  
いきいきと表現できる子ども

宮川 由美

佐賀保育所は、平成22年4月に旧佐賀、横浜、伊与喜、拳ノ川保育所の4園が統合し開設されましたが、統合後に南海トラフ地震の津波高の想定が出されたことにより、平成30年4月に現伊与喜地区に移転となりました。現在71名の子どもたちが保育所生活を楽しくしています。

- ・保育目標やめざす子ども像に向け、遊びを通して生きていく力の基礎を育む
- ・遊びの環境を保障する
- ・自主性、自発性を育む
- ・防災意識を高める

◆自然のアスレチック

三方を山に囲まれていることもあり、秋には栗を拾って煮て食べたり、ドングリを拾って制作したりできました。

ボルダリングもあります。園庭のすぐそばの山では、斜面を登ったり、すべったり、木の枝につ

り下げたタイヤでブランコしたりと自然を利用したアスレチックを楽しんでいます。町内のほかの保育所と同じように「早寝早起き朝ごはん、運動」に取り組みしており、ゴールデントimeには格好の遊び場運動の場となっています。

◆畑の日(菜園活動)

新園においては、菜園活動のできる畑もでき、サツマイモ、ジャガイモ、ダイコン、ニンジン、エンドウなどの栽培、収穫を楽しむことができます。



なりました。月に一度は全員が畑に出かけ、収穫したり、草を引いたり、



その様子を眺めたりしています。栽培、収穫した野菜を使って、慣れない手つきでクッキングしたり、目の前で調理してもらったりすることによって、視覚嗅覚などの五感を刺激し、苦手な野菜も食べられるようになりました。ホットプレートで作るナスのお好み焼き風や大根葉の炒め物が好評でした。



◆避難訓練

毎月1回、地震や火災、風水害などを想定して行なっています。昨年度までは津波から避難するために荒神山避難広場や避難タワーへの訓練を計画実行していましたが、移転したことを機会に避難した後のことも考え、パッキングなどに取り組みしました。

◆地域に根ざした保育所として(連携)

佐賀中学校区保小中連携会議があります。15年間を見通した園児・児童・生徒の育成を図るため佐賀地区の小・中学校と連携し活動しています。「聴く力・話す力を育てる」といって、返事ができるように、「〜」という同じテーマに沿って、公開授業や公開保育、意見交換など取組を進めています。中学生が保育所に読み聞かせに来るといった活動につながったこともありました。

さまざまな地域のイベントにも参加し交流しています。伊与木川を守る会主催のアユの放流や戻りガツオ祭、三方山奉納相撲大会、横浜解放まつりがあります。そのほかにも、かしま荘との交流(七夕の飾りつけ・運動会)や佐賀地区老人体育大会への参加もしています。主に年長児が参加していますが、小さいクラスの子どもたちも、「ぞう組さんになったら…」と憧れの気持ちを育てています。子どもたち一人ひとりが、自分が何かすることによって喜んでくれる人たちがいるということを感じ取り、自分自身の成長へとつながっていきます。